

資料 1. 新体育館の整備方針

市内外からの集客が図れる、アマ・プロを問わないスポーツイベント、さらには、スポーツ以外のイベントなどにも利用できる多目的な施設として、また、市民が気軽に憩える機能も併せ持った新たな『にぎわい』の拠点となる施設整備を目指します。

(1) これまでにいただいた新体育館に関するご意見

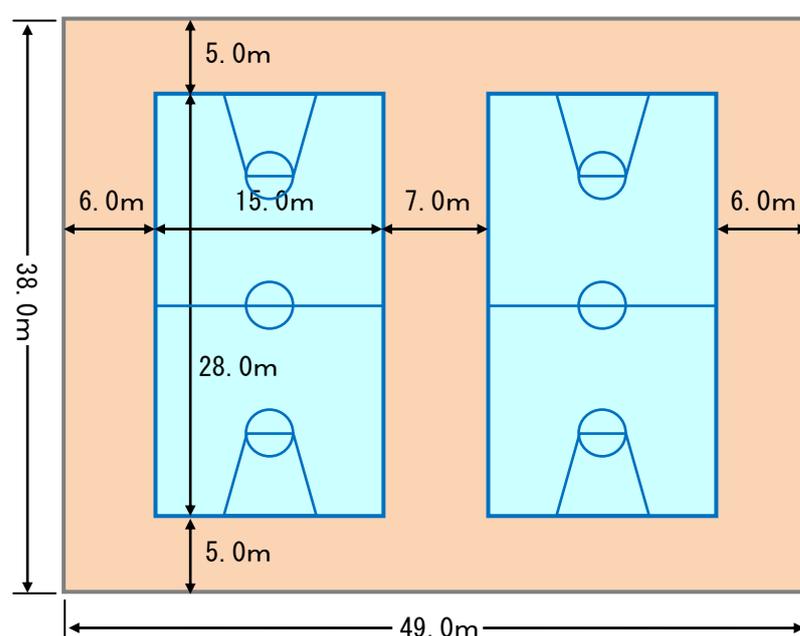
①体育館の位置づけについて	
<ul style="list-style-type: none"> ◇体育館は市民利用を重視するより、バスケットのメッカとして草津市のイメージが定着するような集客拠点として特化した施設とする方がよい。 ◇体育館は、大人になった時にもう一度利用したいと思えるような場所であって欲しい。 ◇中心市街地に位置する野村スポーツゾーンの体育館は、草津市の中心的な体育館とした方がよい。 ◇体育館の建替えは、耐震性の問題から早急に実施するべきである。 ◇大きな大会を行うためにはメインアリーナとサブアリーナが必要である。 ◇2階建ての体育館として、1階はアリーナ、2階は卓球やバドミントンというように使い分けができるとよい。 ◇スポーツ競技だけでなく、楽しい憩いや遊びの場所が欲しい。 	
②体育館に確保する機能・諸室について	
観客席	<ul style="list-style-type: none"> ◇レイクスターズの試合や高校生、大学生の近畿大会レベルの開催には、観客席が3,000～4,000席確保できるような体育館が望ましい。 ◇観客席は、3～4面確保できるようにした方がよい。
飲食等	<ul style="list-style-type: none"> ◇体育館の中にレストランやカフェ、パブなどがあると、気軽に地域の人が集まったり、スポーツ施設を使った後も気楽に集うことができ、集えるからスポーツを覗いてみようという雰囲気にもなる。 ◇飲食ができるスペースやサウナルーム、宿泊できるような施設を持ち、いろんな人が合宿をしながら利用できること等が必要になる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ◇軽スポーツや高齢者や子どもが遊べる部屋が1階にあるとよい。 ◇ロッククライミングなど見て楽しめるスポーツ施設があるとよい。 ◇体育館内に会議施設があると良い。 ◇体操教室を実施する場合はスペースさえ確保できればよいので、スタジオまでは必要ない。 ◇武道場やトレーニング室は他所に確保されており、その利用度も低いのが現状であるため必要ない。
③体育館に備える設備等について	
<ul style="list-style-type: none"> ◇体育館の空調設備を良くし過ぎると利用料金が高くなるため、断熱性をよくするなどの工夫をして欲しい。 ◇対象とする競技に合わせた空調や高さを検討する必要がある。 ◇自然光が必要なスポーツと必要ないスポーツがあるため、部屋の使い分けができるようにするとよい。 ◇持ち帰りが難しい器具を置いておくことができるスペースがあるとよい。 ◇防災備蓄倉庫は体育館内ではなく、専用の施設を整備した方がよい。 	

(2) メインアリーナの整備方針

① 日常的なスポーツ利用への対応

(仮称)野村スポーツゾーン整備の基本コンセプトである“新たな『にぎわい』と『ALL くさつ』のスポーツライフの創造”を牽引する中核施設として、大規模なスポーツ競技大会の開催への対応や日常的な一般のスポーツ利用への開放を図るために、現在の体育館と同様にバスケットボールコート2面などの設置が可能となる広さを基本として整備します。

なお、メインアリーナについて下記の規模を確保する場合には、その他のスポーツ競技も含め、国体レベルの規格として、以下のようなコート数の確保が可能となります。

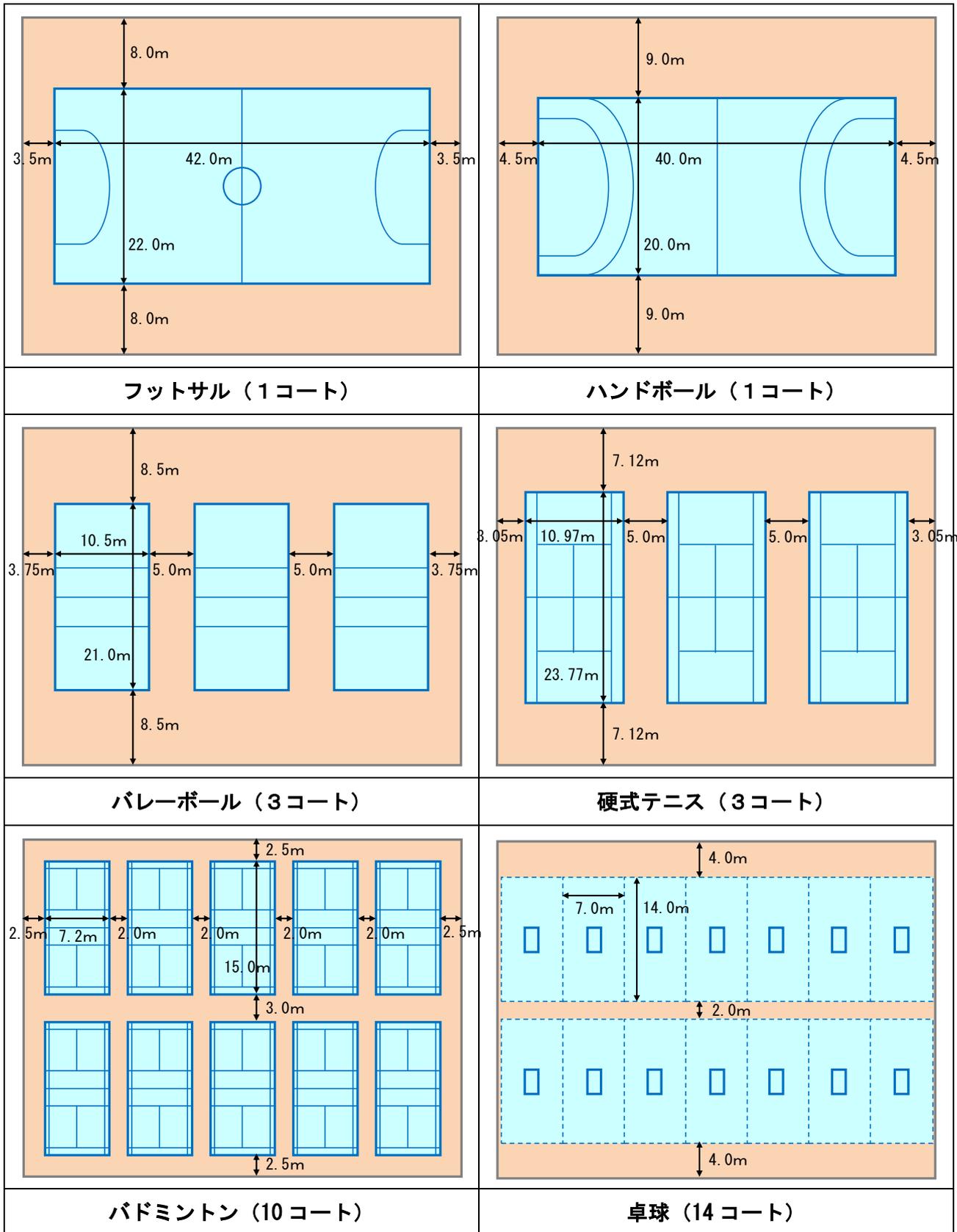


■ メインアリーナの規模の考え方 (A=約 1,860 m²)

● メインアリーナで確保可能な各種競技のコート数

競技種別	確保可能なコート数
フットサル	1コート
ハンドボール	1コート
バレーボール	3コート
硬式テニス	3コート
バドミントン	10コート
卓球	14コート

※ 各競技種別に応じた配置レイアウトは次頁参照



■ メインアリーナで確保できる各種競技のコート数

② コンベンションの誘致への対応

メインアリーナは、従来からの日常的なスポーツ利用への対応だけでなく、中心市街地活性化に貢献する集客拠点として、ゾーン整備の基本コンセプトの特に“新たな『にぎわい』の創造”を図るために、以下のようなコンベンションの誘致に積極的に活用するものとします。

● 誘致するコンベンションのイメージ

コンベンション	学会や業界・団体等の国際会議や全国大会等の集会
セミナー・シンポジウム・フォーラム	研修会や学習会
見本市・展示会	商品の品評会や即売会
イベント	博覧会や伝統的祭事
セレブレーション	祝賀会や発表会



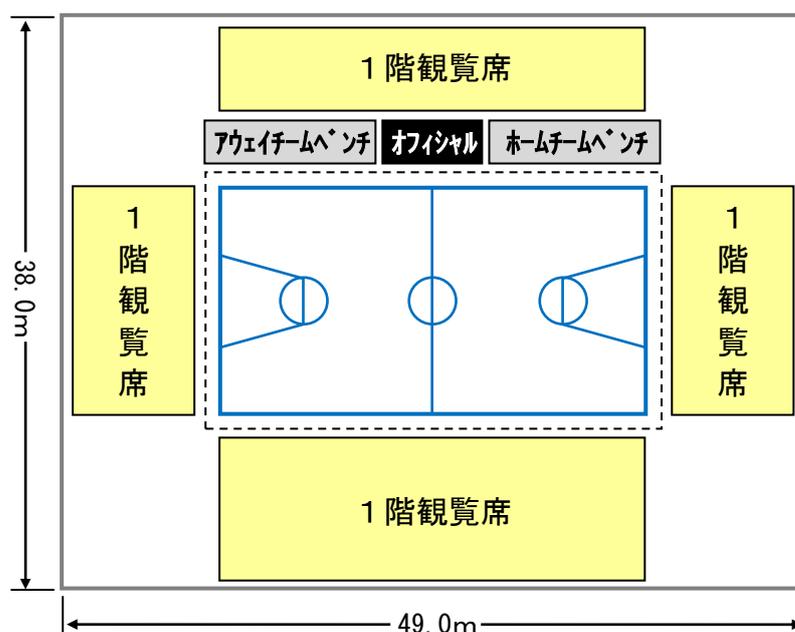
例) ブランド商品の品評会



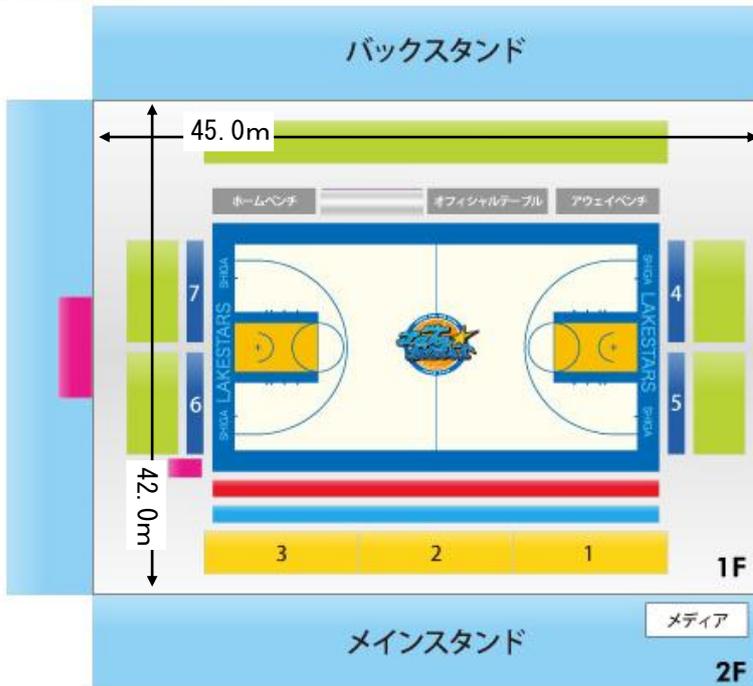
例) ファッションショー

また、中心市街地の集客力を高める戦略の1つとして、bjリーグ『滋賀レイクスターズ』のホームアリーナの1つとして活用することも想定します。

なお、公式戦開催時にはアリーナ中央に試合用コート1面を配置し、長編方向の1辺に対戦チーム（ホーム&アウェイ）のベンチ及びオフィシャルテーブルを確保し、壁面収納型等の可動席を引き出して観覧席を確保する形態を基本とします。



■ bjリーグ公式戦開催時のメインアリーナの利用形態



前売り販売価格

指定席	RESERVE SEAT
スペシャルシート	7,000 円
SV-I 指定席	6,000 円
SV-II 指定席	4,500 円
SS 指定席	4,000 円
S 指定席	2,800 円

自由席	OPEN SEAT
1階自由席(大人)	2,500 円
1階自由席(小中学生)	1,500 円
県立2階自由席(大人)	1,300 円
県立2階自由席(小中学生)	800 円
車椅子席(1階)	2,300 円
車椅子席(2階)	1,300 円

アリーナまでのアクセス ➡

- ※当日券はそれぞれ500円アップ。
- ※未就学児ひざ上観戦無料(大人1名につき子供1名まで)。
- ※車椅子は、同伴者1名に限り無料
- ※座図に記載されている番号は、席種内ブロック番号です。



■ 滋賀県立体育館メインアリーナのbjリーグの試合開催時の形態

(出典：滋賀レイクスターズオフィシャルWEBサイト)

(3) 観覧席の整備方針

メインアリーナの1階部分には壁面収納型等の可動席、また、2階部分にはメインアリーナの外周に配置する器具庫や管理関係諸室等の上部空間となる競技参加者の利用も含めた観覧や休憩のためのスペースとして固定の観客席を設置します。

これらの観客席の規模については、bjリーグの公式戦開催等に対応して1・2階を合わせて最大で3,000席程度を確保することを基本とします。なお、メインアリーナの規模(38m×49m程度)を考慮すると、1階部分の可動席としては最大で1,000席程度までと想定されるため、2階の固定席は2,000席程度を確保します。

【さいたま市記念総合体育館】

◇bjリーグのホームチーム：埼玉ブロンコス

◇メインアリーナ：2,590 m² (37m×70m、バスケットボールコート3面对応)

◇1階可動席：966席、2階固定席：1,988席



【富山県総合体育センター】

◇bjリーグのホームチーム：富山グラウジーズ

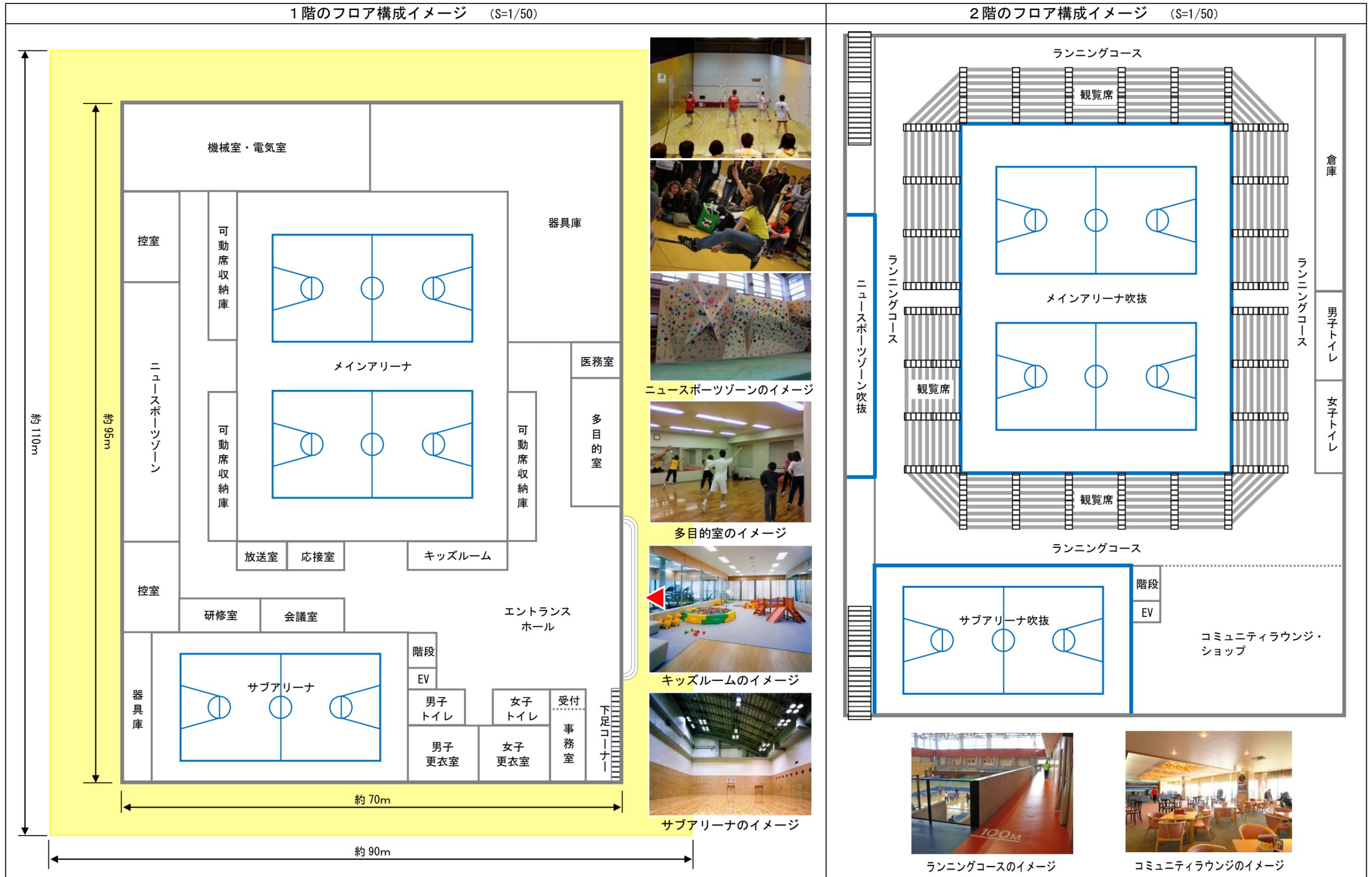
◇メインアリーナ：1,800 m² (36m×50m、バスケットボールコート2面对応)

◇1階可動席：1,024席、2階固定席：2,000席



■ 3,000席程度の観客席を確保したbjリーグホームアリーナの事例

(4) 新体育館のフロア構成イメージ



■ 一般的な体育館としてのフロア構成イメージ

(5) 駐車場の整備方針

① 必要規模の考え方

3,000席の観覧席を持つbjリーグのホームアリーナの事例として取り上げた「さいたま市記念総合体育館」の駐車場は400台、「富山県総合体育センター」は350台であり、いずれも、最寄駅からのバス利用の乗車時間は20分以上必要な立地条件にあり、公共交通機関の利便性も必ずしも高いとは言えない状況にあります。

【さいたま市記念総合体育館】

◇駐車場台数：400台

◇公共交通機関によるアクセス

- ・JR京浜東北線「浦和駅」よりバスで30分
- ・JR埼京線「中浦和駅」よりバスで20分

【富山県総合体育センター】

◇駐車場台数：350台

◇公共交通機関によるアクセス

- ・JR北陸本線「富山駅」よりバスで20分

一方、(仮称)野村スポーツゾーンについては、JR草津駅とはバス(まめバス：山田線、近江バス：浜街道線・近江大橋線)で5分程度、徒歩でも15分程度でアクセスができるなど公共交通機関の利便性が高く、中心市街地活性化の基本方針の1つである「歩いて楽しいまち」として『草津駅西口周辺』や『Aスクエア周辺』の活性化拠点とのネットワーク化を図る上でも、自家用車利用によるアクセスから公共交通機関利用によるアクセスへの転換を促進することが望まれます。

そのため、『滋賀レイクスターズ』のホームゲームを開催している会場の駐車場規模の平均台数を参考として、約400台(約10,000㎡)の駐車場を確保することを基本とします。

② 駐車場の構造の考え方

スポーツ系エリア及び自然系エリアの施設配置レイアウトとの調整を図りながら平面を基本として駐車場を整備します。

なお、今後の各種施設の計画の深度化等に伴って駐車用地の縮小又は駐車台数の拡充等が必要となった場合には、必要に応じて立体化についても検討を行います。ただし、その場合でも、野村財産区のエリアについては施設・構造物の設置が困難であり、新体育館の建築物と複合化する場合には整備費が高くなるため、駐車場用地において地上構造による立体化を図ることを基本とします。

資料 2. 周辺環境整備の検討

■北側道路に対する歩道の確保

交通量の増加が見込まれる北側道路における歩行者の安全性を確保するために、公園敷地内に市道と一体となった歩道を確保する。また、緑化による質の高い歩行空間を目指す。



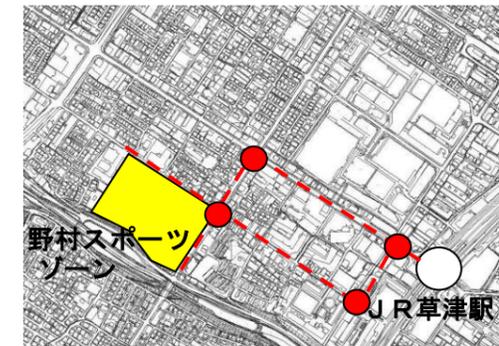
■北側道路バス路線におけるバス停の公園内への移動

交通量の増加が見込まれる北側道路の安全性や交通渋滞の解消、公園利用者の利便性に配慮し、野村運動公園口バス停を公園内へ移動する。

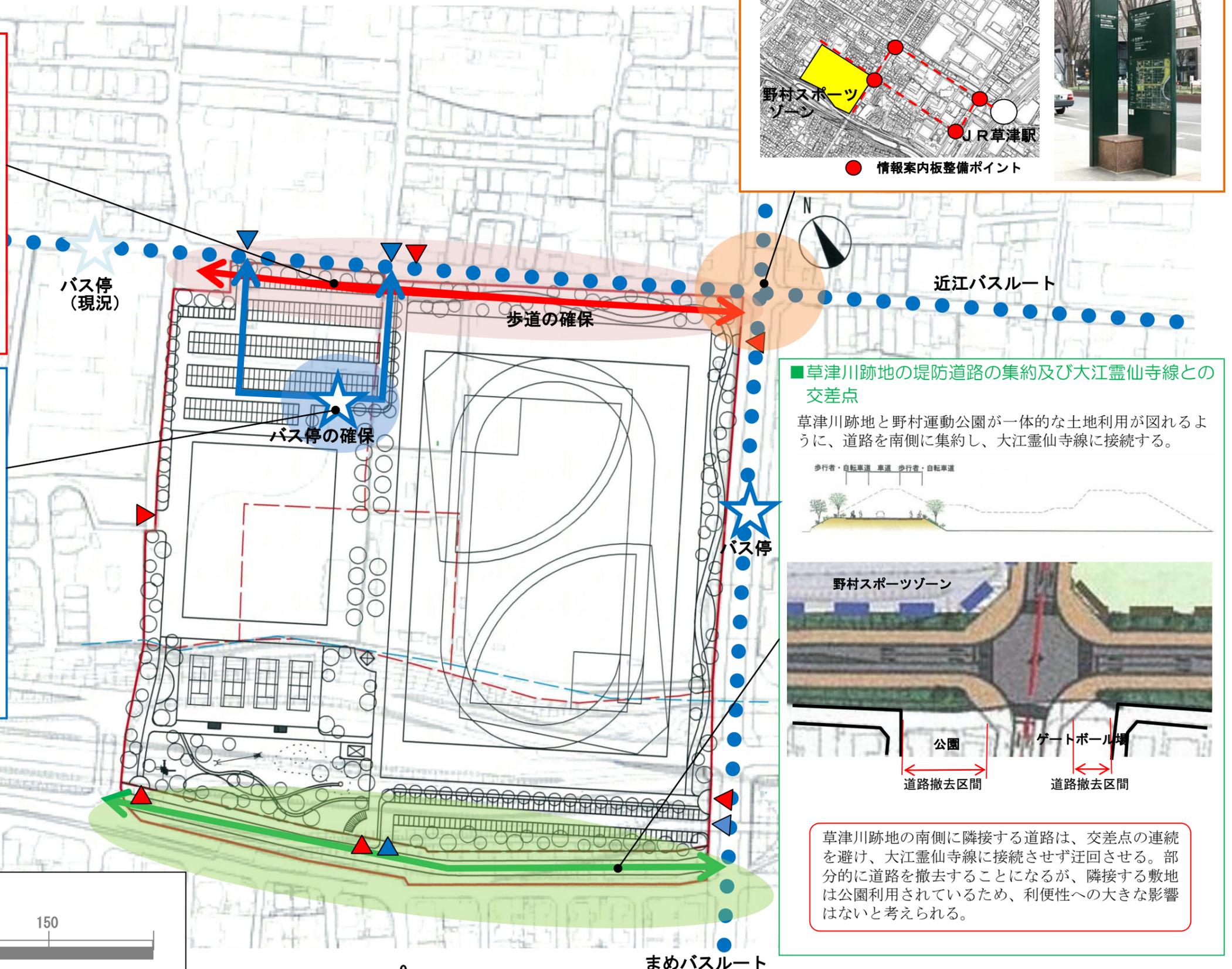


■情報案内板等の整備

J R 草津駅・その他の集客拠点との連携、回遊性向上に向けて、アクセスルート上の交差点部等に情報案内板を設置する。



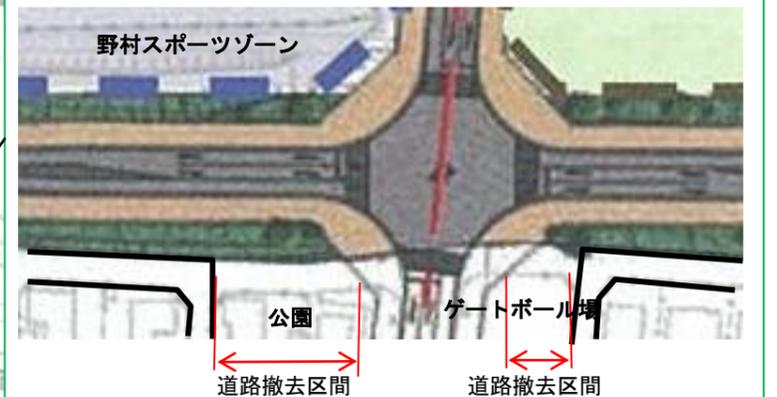
● 情報案内板整備ポイント



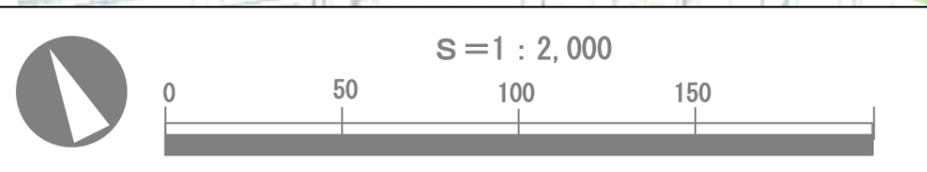
■草津川跡地の堤防道路の集約及び大江霊仙寺線との交差点

草津川跡地と野村運動公園が一体的な土地利用が図れるように、道路を南側に集約し、大江霊仙寺線に接続する。

歩行者・自転車道 車道 歩行者・自転車道



草津川跡地の南側に隣接する道路は、交差点の連続を避け、大江霊仙寺線に接続させず迂回させる。部分的に道路を撤去することになるが、隣接する敷地は公園利用されているため、利便性への大きな影響はないと考えられる。



資料 3. 概算工事費の検討

条件：ゾーン内の段階的施設整備の考え方

第 1 期工事	第 2 期工事																								
<p> ——— : 整備事業完了（平成 30 年度末）までに新たに整備される施設 ——— : 現況のままの施設 - - - - - : 土地所有区分 - - - - - : 用水路 </p>	<p> ——— : 草津川跡地整備以降（平成 31 年度～）の将来的に新たに整備される施設 ——— : 整備事業完了（平成 30 年度末）までに整備済の施設 </p>																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>工事</th> <th>用地</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">事業費</td> <td>33 億円</td> <td>22 億円</td> <td>55 億円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">国 費</td> <td>15 億円</td> <td>6 億円</td> <td>21 億円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">市 費</td> <td>市債</td> <td>16 億円</td> <td>14 億円</td> <td>30 億円</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>2 億円</td> <td>2 億円</td> <td>4 億円</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成 25 スポーツゾーン基本計画 平成 26 体育館基本設計 平成 27 体育館実施設計 平成 28～ 体育館建築工事</p>			工事	用地	計	事業費		33 億円	22 億円	55 億円	国 費		15 億円	6 億円	21 億円	市 費	市債	16 億円	14 億円	30 億円	一般	2 億円	2 億円	4 億円	<p>サッカースタジアムや陸上競技場の整備にあたっては、以下の課題解決が必要となる。</p> <p>※多くの市民利用が見込まれる多目的グラウンドの代替機能の確保</p> <p>※駐車場規模の検討と用地の確保</p> <p>※サッカースタジアムや陸上競技場の整備に係る工事費が必要（約 40 億円、周辺整備工事費や用地費は除く）</p> <p>※多目的グラウンド、テニスコート、駐車場、公園施設に係る工事費約 17.4 億円</p> <p>第 1 期工事費： 55 億円</p> <p>第 2 期工事費： 17.4 億円（多目的グラウンドの場合）</p> <p>合 計： 72.4 億円</p>
		工事	用地	計																					
事業費		33 億円	22 億円	55 億円																					
国 費		15 億円	6 億円	21 億円																					
市 費	市債	16 億円	14 億円	30 億円																					
	一般	2 億円	2 億円	4 億円																					